

(19)日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開平7-36904

(43)公開日 平成7年(1995)2月7日

(51)Int.Cl. ⁶	識別記号	庁内整理番号	F I	技術表示箇所
G 0 6 F 17/28				
3/14	3 4 0 C			
15/00	3 1 0 E	7459-5L	G 0 6 F 15/ 38	Z
		8125-5L		

審査請求 有 請求項の数3 O L (全 5 頁)

(21)出願番号 特願平5-175270

(22)出願日 平成5年(1993)7月15日

(71)出願人 000004237

日本電気株式会社

東京都港区芝五丁目7番1号

(72)発明者 川上 智子

東京都港区芝五丁目7番1号 日本電気株式会社内

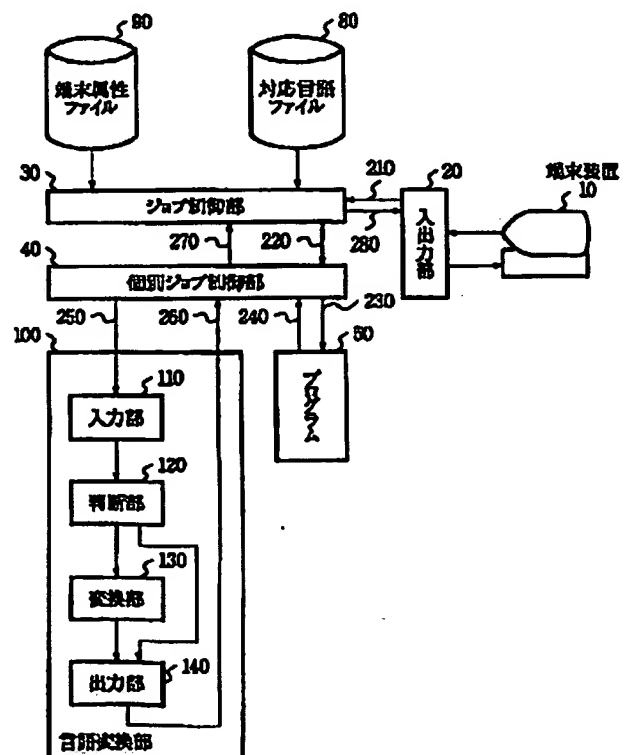
(74)代理人 弁理士 京本 直樹 (外2名)

(54)【発明の名称】 メッセージ制御管理装置

(57)【要約】

【目的】プログラムの表示するメッセージを、使用端末装置で表示可能な言語に変換して表示する。

【構成】指定されたプログラムに対応する標準言語を保持する対応言語ファイル80と、使用端末装置が表示可能な言語を保持する端末属性ファイル90と、表示すべき言語を決定するジョブ制御部30と、指定されたプログラムを起動してメッセージを抽出する個別ジョブ制御部40と、メッセージを変換する言語変換部100とを有する。



【特許請求の範囲】

【請求項 1】 実行すべきプログラムと希望するメッセージ表示用言語とを指定する端末装置と、

前記プログラムが標準的に使用する言語を識別するための識別子を格納する対応言語識別子格納手段と、

前記端末装置において表示可能な言語を識別するための識別子を格納する端末属性識別子格納手段と、

前記端末装置で指定された言語と前記対応言語識別子格納手段からの言語と前記端末属性識別子格納手段からの言語の内いずれの言語で表示すべきかを決定するジョブ制御手段と、

前記プログラムを起動してこのプログラムが表示するメッセージを抽出する個別ジョブ制御手段と、

この個別ジョブ制御手段で抽出されたメッセージをジョブ制御手段で決定された言語に変換する言語変換手段とを有することを特徴とするメッセージ制御管理装置。

【請求項 2】 前記ジョブ制御手段において、前記端末装置で指定された言語が前記端末装置によって表示可能であれば前記端末装置で指定された言語を表示すべき言語として決定し、そうでなければ前記対応言語識別子格納手段からの言語を表示すべき言語として決定することを特徴とする請求項 1 に記載のメッセージ制御管理装置。

【請求項 3】 前記ジョブ制御手段において、前記端末装置で指定された言語が前記端末装置によって表示可能であれば前記端末装置で指定された言語を表示すべき言語として決定し、そうでなければ前記対応言語識別子格納手段からの言語が前記端末装置によって表示可能であれば前記対応言語識別子格納手段からの言語を表示すべき言語として決定し、そうでなければ前記端末属性識別子格納手段からの言語を表示すべき言語として決定することを特徴とする請求項 1 に記載のメッセージ制御管理装置。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】 本発明は、プログラムのメッセージ表示に関し、指定された言語によりメッセージ表示を行なうメッセージ制御管理装置に関する。

【0002】

【従来の技術】 従来この種のメッセージ制御管理装置では、プログラムが表示しようとするメッセージを、ユーザにより指示された言語に翻訳して表示する。例えば、特開平 2-100177 号公報には、プログラムが出力するメッセージを抽出して任意の言語に翻訳して表示する情報処理装置が記載されている。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】 しかしながら、このような従来のメッセージ制御管理装置では、表示すべき言語をユーザが一時的に指定するだけであり、もしその指定した言語を表示できない端末装置を使用している場合

には適切な表示をすることができない。このため、起動しようとするプログラムが起動できなかったり、起動できても文字化けを起こしてしまうなどの問題がある。

【0004】

【課題を解決するための手段】 上述した問題点を解決するために本願発明のメッセージ制御管理装置では、実行すべきプログラムと希望するメッセージ表示用言語とを指定する端末装置と、前記プログラムが標準的に使用する言語を識別するための識別子を格納する対応言語識別子格納手段と、前記端末装置において表示可能な言語を識別するための識別子を格納する端末属性識別子格納手段と、前記端末装置で指定された言語と前記対応言語識別子格納手段からの言語と前記端末属性識別子格納手段からの言語の内いずれの言語で表示すべきかを決定するジョブ制御手段と、前記プログラムを起動してこのプログラムが表示するメッセージを抽出する個別ジョブ制御手段と、この個別ジョブ制御手段で抽出されたメッセージをジョブ制御手段で決定された言語に変換する言語変換手段とを有する。

【0005】 また、前記ジョブ制御手段において、前記端末装置で指定された言語が前記端末装置によって表示可能であれば前記端末装置で指定された言語を表示すべき言語として決定し、そうでなければ前記対応言語識別子格納手段からの言語を表示すべき言語として決定する。

【0006】 また、前記ジョブ制御手段において、前記端末装置で指定された言語が前記端末装置によって表示可能であれば前記端末装置で指定された言語を表示すべき言語として決定し、そうでなければ前記対応言語識別子格納手段からの言語が前記端末装置によって表示可能であれば前記対応言語識別子格納手段からの言語を表示すべき言語として決定し、そうでなければ前記端末属性識別子格納手段からの言語を表示すべき言語として決定する。

【0007】

【実施例】 次に本願発明のメッセージ制御管理装置の一実施例について図面を参照して詳細に説明する。

【0008】 図 1 を参照すると、本発明の一実施例のメッセージ制御管理装置は、端末装置 10 とのやりとりを行なう入出力部 20 と、対応言語ファイル 80 と端末属性ファイル 90 とをアクセスして翻訳すべき言語を決定するジョブ制御部 30 と、プログラム 50 を起動する個別ジョブ制御部 40 と、メッセージの翻訳を行なう言語変換部 100 とから構成される。

【0009】 まず、プログラムを実行しようとする使用者は、実行しようとするプログラム名とメッセージを表示すべき言語とを端末装置 10 を通じて指示する。これを受け取った入出力部 20 は、この指示をジョブ制御部 30 に信号線 210 を介して転送する。この信号線 210 上のインタフェースフォーマットは、図 2 (a) のよ

うに、使用者がメッセージ表示させたい言語（以下「指定言語」と称す）と使用者が実行しようとする「プログラム名」とを含んでいる。

【0010】ジョブ制御部30は、入出力部20からの「プログラム名」に基づいて、対応言語ファイル80から「プログラム名」のプログラムに対応するメッセージ表示用標準言語（以下「標準言語」と称す）を検索する。この対応言語ファイル80は、プログラム名とメッセージ表示用標準言語、すなわち各プログラムが標準として規定するメッセージ表示用言語とを対にして記憶し
10 ており、ジョブ制御部30はこれを検索して「標準言語」を得る。

【0011】また、ジョブ制御部30は、その使用者が使用している端末装置の種類をOSが提供する関数などにより認識して、その端末装置が対応可能な文字コードを端末属性ファイル90から検索する。そして、この対応可能な文字コードを基に、図3の手順に従って端末装置に表示する言語（以下「表示言語」と称す）を決定する。図3を参照すると、まず、入出力部20からの「指定言語」がその端末で表示可能かどうかを調べて、可能
20 であれば「表示言語」として「指定言語」を使用する。すなわち、使用者が当初から指定している言語でメッセージ表示を行なうこととする。「指定言語」が表示不可能であれば、プログラムの「標準言語」がその端末で表示可能かどうかを調べて、可能であれば「表示言語」として「標準言語」を使用する。すなわち、使用者が指定する言語では表示できないので、プログラムが標準として規定する言語で表示することとする。「標準言語」が表示不可能であれば、表示可能な言語の中から任意の言語を選択して「表示言語」とする。任意の言語とは、例
30 えば、端末属性ファイル90で示される表示可能な言語のリストの内、先頭のものを使用することにすればよい。

【0012】ここまでの処理により、ジョブ制御部30はプログラム実行のための指示を信号線220を介して個別ジョブ制御部40に転送する。この指示は、図2

(b)に示すフォーマットを有し、プログラムの「標準言語」、メッセージ表示する「表示言語」、および、実行しようとする「プログラム名」を含んでいる。個別ジョブ制御部40は、このプログラム（ジョブ）が終了するまで、これらの情報を保持してメッセージ変換のための制御を行なう。
40

【0013】上記指示を受け取った個別ジョブ制御部40は、信号線230を介してプログラム50を起動する。プログラム50は実行を開始し、プログラム実行の流れに従って信号線240を介してメッセージを出力する。出力されたメッセージを受け取った個別ジョブ制御部40は、そのメッセージを言語変換部100に渡し
て、適切な言語によるメッセージに変換する。

【0014】図1を参照すると、言語変換部は、入力部
50

110と、翻訳すべき言語を判断する判断部120と、言語の翻訳を行なう変換部130と、出力部140とを含んでいる。

【0015】まず、入力部110は、個別ジョブ制御部40から信号線250を介して受け取ったメッセージを判断部120に転送する。この際のパフォーマットは、図2(c)に示すように、プログラムの「標準言語」、メッセージ表示する「表示言語」、および、「変換前メッセージ」を含んでいる。判断部120は、上記「標準言語」と「表示言語」とを比較し、もし両者が一致していれば「変換前メッセージ」をそのまま出力部140に転送する。すなわち、この場合は変換を必要としないから、変換部130をバイパスする。もし、「標準言語」と「表示言語」とが一致していなければ、「標準言語」による「変換前メッセージ」を「表示言語」に変換すべく、変換部130にこれらを転送する。この変換部130では、「変換前メッセージ」を翻訳して、出力部140に「変換後メッセージ」を渡す。変換部130は既存の技術による翻訳手段であり、ここでは詳細な説明は省略する。これにより、出力部140は信号線260を介して図2(d)の「変換後メッセージ」を個別ジョブ制御部40に転送する。

【0016】言語変換部100により変換されたメッセージは、個別ジョブ制御部40からジョブ制御部30と入出力部20を介して、端末装置10に表示される。このメッセージの変換は、そのプログラムが終了するまで行なわれる。

【0017】

【発明の効果】以上説明したように本願発明によれば、使用者が使用している端末装置に対して、使用者の指定する言語を表示できない場合であっても、適切な言語を用いてメッセージの表示を行なうことができる。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明のメッセージ制御管理装置の一実施例の構成図である。

【図2】本発明のメッセージ制御管理装置内のインターフェースフォーマットである。

【図3】本発明のジョブ制御部での表示言語決定手順の一実施例である。

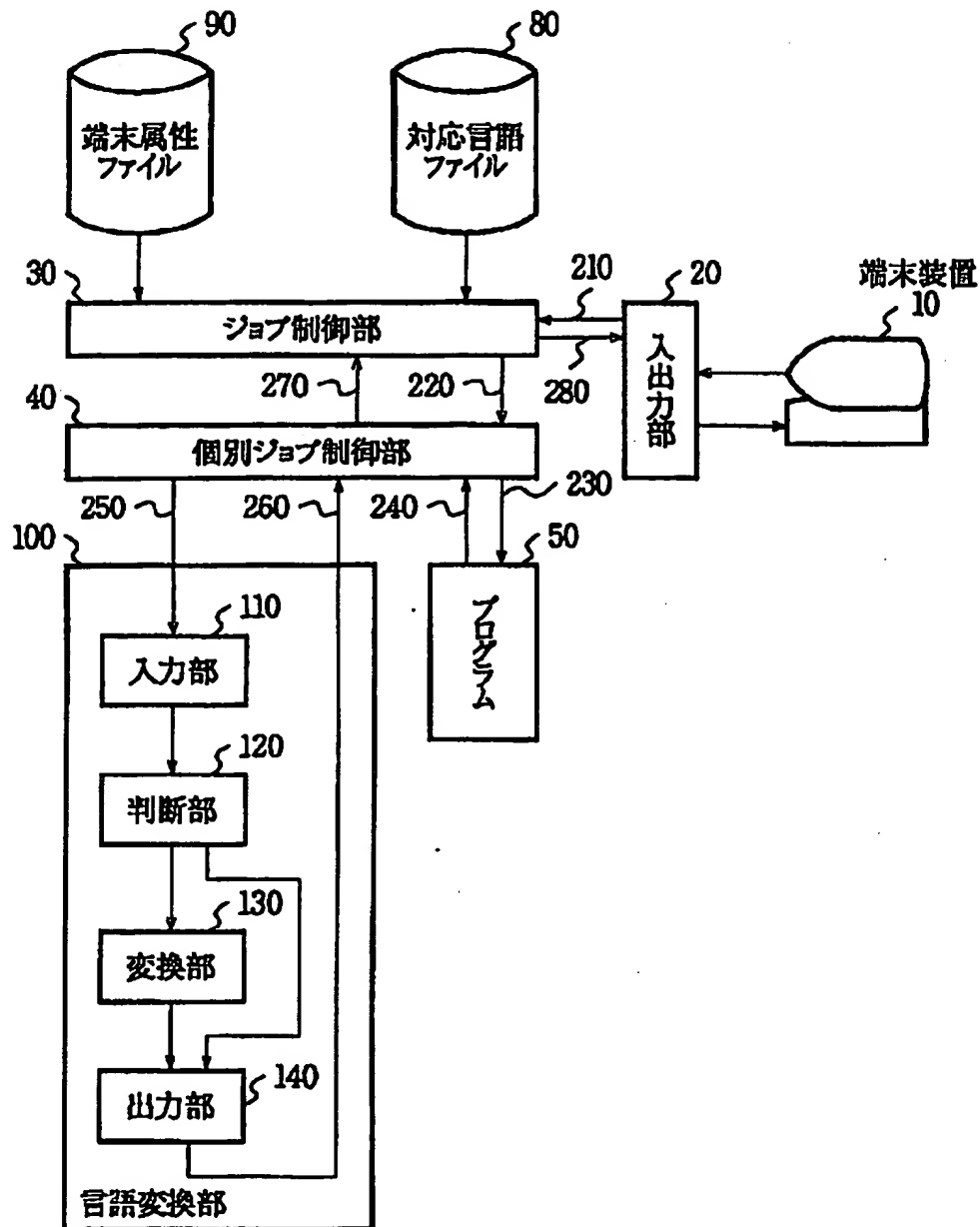
【符号の説明】

- 10 端末装置
- 20 入出力部
- 30 ジョブ制御部
- 40 個別ジョブ制御部
- 50 プログラム
- 80 対応言語ファイル
- 90 端末属性ファイル
- 100 言語変換部
- 110 入力部
- 120 判断部

130 変換部
140 出力部

210~280 信号線

【図1】



【図2】

指定言語	プログラム名
------	--------

(a) 入出力部20からジョブ制御部30へ

標準言語	表示言語	プログラム名
------	------	--------

(b) ジョブ制御部30から個別ジョブ制御部40へ

標準言語	表示言語	変換前メッセージ
------	------	----------

(c) 個別ジョブ制御部40から言語変換部100

変換後メッセージ

(d) 言語変換部100から個別ジョブ制御部40

【図3】

